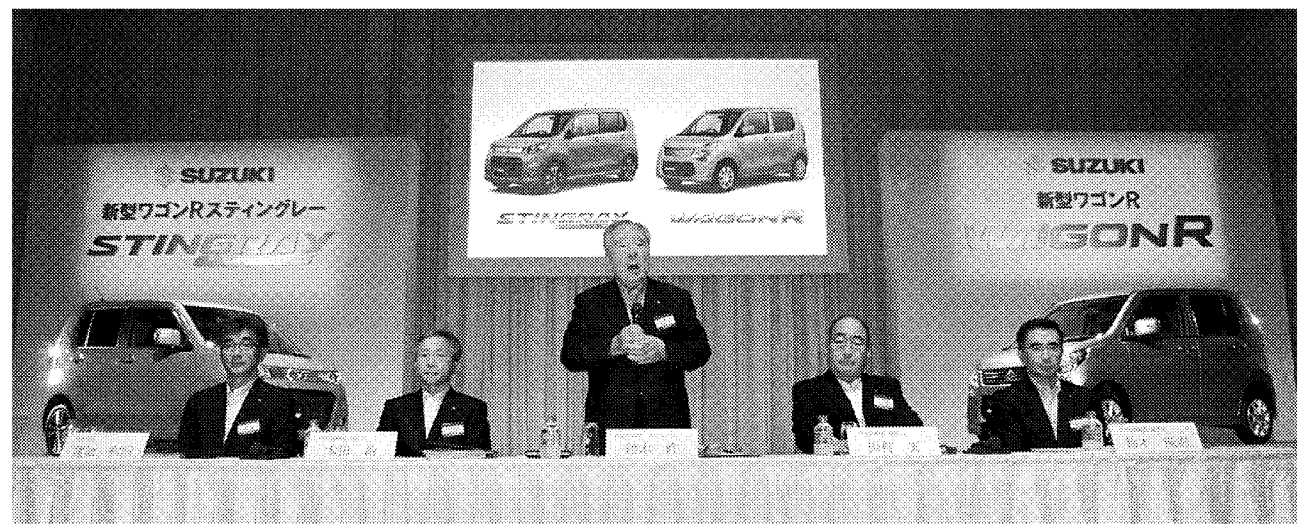
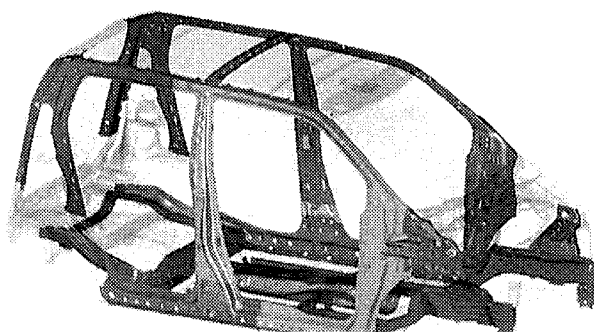


～躍進する静岡県産業界～



スズキ、新型「ワゴンR」発表会見、中央が鈴木修会長、左から2人目が本田治副社長

スズキが発売した新型ワゴンRは、ワゴンタイプの軽自動車として、燃費性能であるカンリット28.8km/Lを実現した。新開発の減速エネルギーリターン機構「エネチャージ」を搭載。車体重量を従来比70%減の780kgとすべく徹底した軽量化など、燃費を向上した。外観は一目でワゴンRと分かる形を継承しつつ、上質感に磨きをかけた。価格はコスト削減で、先代と同水準に抑えて、幅広い層で販売を目指す。全面改良は4年ぶり、今回は5代目となる。新型ワゴンRで導入した低燃費技術は、「スズキ



スズキ、新型「ワゴンR」は大幅な軽量化を実現した

スズキ 新型ワゴンRを発売 大幅な軽量化で燃費向上

静岡県産業界を代表する輸送機器メーカーのスズキとヤマハ発動機は、少子高齢化で需要が減少する国内事業を維持しながら、成長するアジア市場でさらなる事業拡大を目指す。スズキは同社の最量販車である「ワゴンR」を全面改良した新型を6日に発売。車体を共通化した小型車の海外展開も視野に入れる。ヤマハはローン規制強化の影響で12年遅れるが、インドネシア工場の増強計画。ミャンマーなどインドネシア以外の新興国開拓にも力を入れる。ヤマハはランドビノの旗艦機種「CFX」の技術を取り入れたビノの新製品を相次いで投入する。



ヤマハのハイブリッドピアノ「NU1」

ヤマハ発動機はインドネシアの2輪車の生産能力を2014年までに現在比40万台増の400万台へ引き上げる。12年中に増やす計画だったが、6月に現地地で始まったローンの頭金規制で足元の需要が減少しており、先送りした。中期的なインドネシアの2輪車需要については柳弘之ヤマハ発動機社長は「13年4月には、12年12月期に見込んでいた年間870万台になると思われる」とみる。時期は遅れるが当初計画通り、ジャカルタ州と西ジャワ州にある既存2工場を増強する計画だ。同社は東南アジアの2輪車事業が主力。11年12月期の世界販売台数は約700万台で、このうちインドネシアが313万台を占める。一方ではインドネシア偏重の是正にも動いている。インドでは2輪車生産能力を18年に現在比4.6倍の280万台にする計画だ。南部のタミル・ナードゥ州に、年産能力180万台の新工場を建設。北部のウタラ・プラデーシュ州にある既存工場も同60%増の100万台にする。また、ミャンマーでは、将来の販売子会社の設立を視野に入れている。ヤンゴン市に駐

ヤマハ発動機はインドネシアの2輪車の生産能力を2014年までに現在比40万台増の400万台へ引き上げる。12年中に増やす計画だったが、6月に現地地で始まったローンの頭金規制で足元の需要が減少しており、先送りした。中期的なインドネシアの2輪車需要については柳弘之ヤマハ発動機社長は「13年4月には、12年12月期に見込んでいた年間870万台になると思われる」とみる。時期は遅れるが当初計画通り、ジャカルタ州と西ジャワ州にある既存2工場を増強する計画だ。同社は東南アジアの2輪車事業が主力。11年12月期の世界販売台数は約700万台で、このうちインドネシアが313万台を占める。一方ではインドネシア偏重の是正にも動いている。インドでは2輪車生産能力を18年に現在比4.6倍の280万台にする計画だ。南部のタミル・ナードゥ州に、年産能力180万台の新工場を建設。北部のウタラ・プラデーシュ州にある既存工場も同60%増の100万台にする。また、ミャンマーでは、将来の販売子会社の設立を視野に入れている。ヤンゴン市に駐



ヤマハ発動機が7月下旬にインドネシア市場へ投入した2輪車

ヤマハ インドネシアで生産増 積極的な新製品投入へ

グリーンテクノロジとして今後発売する車両に展開する(本田治スズキ副社長)計画だ。

一方、海外では7月18日にインドのマナサル工場(ハリナ州)で従業員による暴動が発生。約1カ月後の8月21日に稼働し、1日当たりの生産台数を9月上旬時点の約850台と通常稼働時の半分まで戻した。しかし、従業員は約1400人と暴動前の約3割。2動交代の通常稼働状態に戻すには人員増強が必要で、時間がかかる見通しだ。鈴木会長は新興国に潜るリスクを意識しながらも「インドネシア、ベトナム、ミャンマーなどアジアは小さい車が必要とされている」とし、今後もアジアで販路を拡大する考えだ。

家庭用燃料電池
ENE-FARM
エネファーム

これからは エネルギーを使う家から、つくる家へ。

エネファームのある暮らし

www.shizuokagas.co.jp

静岡ガス 検査

SHIZUGAS 静岡ガス

その先のステージへ

プラスチック部品

自動車・医療・家電・住宅関連製品

高度なプラスチック成形技術を核に、新しい分野・市場を目指します。

南部化成株式会社
http://www.nanbu.co.jp/

自社製品

- ・蛍光灯型LED照明
- ・加湿空気清浄器
- ・マイクロニードル

本社管理部: 421-0305 静岡県榛原郡吉田町大橋21-1
TEL: 0548-34-1801(代) FAX: 0548-34-1802
国内6事業所・2営業所 関連会社国内4社/海外9社

KANTOSEIKO

常識のレベルは、人によって異なれど
秩序とは、人として生きるための規範である!
よって能力以上に必要なのが、家庭の絆なり

株式会社 関東精工

〒419-0313 静岡県富士宮市西山2103 TEL (0544) 65-1540 FAX (0544) 65-1912
http://www.kantoseiko.co.jp E-Mail: info@kantoseiko.co.jp

生産変動や多品種少量生産に対応可能な

マルチ粉体計量システム

コンテナ・超高精度計量装置・自動倉庫などでシステムを構成

ISO-9001 ISO-14001 認証取得

コンテナシステム
コンテナと排出機構をドッキング。流動性の悪い粉粒体の完全排出に!

紙袋粉体吸引装置
パウダーワープ
コンタミ皆無の状態、中身の粉体を次工程に吸引移送する装置。

スプリットバタフライバルブ
原薬製造など高薬理活性物質をあつかうプロセスでは「封じ込め」技術が重要です。そして原薬の小分け・容器間の移し替え、乾燥機や反応釜へ投入・排出などではスプリットバタフライバルブが多く使用されています。

かるがるコンベア
振動ダンパー式フィーダ「かるがるフィーダ」に「吸引輸送装置」を併用し、さらにロードセルにより排出量をコントロールすることにより成功しました。「速い」「貯める」「計る」が、この一台で実現します。

吸引輸送装置(バキュームコンベア)
積算式計量装置
振動ダンパー式フィーダ(かるがるフィーダ)

その他取扱品目
連続定量供給装置、パッチ計量装置、小型吸引輸送装置、空気輸送装置、スクリーンフィーダ、バグフィルタ、ロータリーバルブ、特殊布製サイロ、貯留サイロシステム

資料送付・テスト迅速対応! TEL 055-925-6666またはTEL 03-3263-3407

赤武エンジニアリング株式会社

本社 〒410-0302 静岡県沼津市東横路632 TEL (055) 925-6666 FAX (055) 925-6688
東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-5-8 TEL (03) 3263-3407 FAX (03) 3263-3405

●当社のホームページ及びE-mailアドレス http://www.akatake.co.jp info@akatake.co.jp

窒化も雰囲気制御の時代!!

営業品目

- ガス軟窒化
- 浸炭焼入、浸炭窒化
- 真空熱処理
- アルミT2～T6
- 焼入焼戻
- 光輝焼鈍、焼準

株式会社 中遠熱処理技研

〒436-0083 静岡県掛川市蓮ヶ谷840-1
TEL (0537) 24-5566 (代表) FAX (0537) 24-5567

URL http://www.chuen-ht.jp E-mail takada@chuen-ht.jp

バーコータのことならおまかせ

バーコータの進化形 **DMコータ**
パイロットコータでテスト可能

薄く 1.5g/m²(wet)の超薄膜塗工を実現
やさしく セミクロス方式により溶剤揮発量を軽減 塗工液の循環量を軽減
コンパクト 既設設備への改造、増設が容易 液供給と計量を一体化

ワイヤーバー

製品開発へのお手伝い
卓上型バーコータ試験機
ちよい塗りくん

■ワイヤー径0.025mmの極細線から1.5mmまで幅広く対応
極細線バーの開発により、お客様の新しい要求にも対応可能です。

株式会社 小林製作所

本社: 工場/〒416-0921 静岡県富士市水戸島2-1-1 TEL 0545(61)2400 FAX 0545(61)5229
URL http://www.kobayashieng.co.jp